

## 「9年間の学びの連続性を意識した外国語活動」

横須賀市立養護学校

教諭 森崎 香

はじめに

本校は肢体不自由の児童生徒に対する教育を行う特別支援学校であり、ライフキャリア教育の視点に立って、児童生徒の教育目標を設定している。自立活動を主とする教育課程と、知的代替の教育課程で授業を行っている。小学部2ブロック5学級と中学部1ブロック3学級からなり、2～3の学年が混在する学級で構成されている。令和5年度の在籍児童生徒は、41人である。

### 【目的】

令和4年度の研究テーマは「9年間の学びの連続性を意識した外国語活動～3年間の研究をいかした授業づくり～」とした。外国語につながるの深い横須賀の地域性から、英語を用いて楽しみながら気持ちや考えを伝えよう要素「feeling」に焦点をあてた。本校の外国語活動の柱である「外国の言語や文化に親しみ、知る楽しさを体験する授業」の年間計画の作成と、9年間の学びの連続性を意識した授業づくりのための実践研究を進めた。

### 【内容】

#### ①年間指導計画

9年間のつながりを図るためにどのブロックでも大切に扱う柱として「feeling」を焦点化した。小学部低学年-高学年-中学部と子どもの成長に合わせ、この柱に「出会う」-「触れる」-「表現する」-ことのできる授業づくり、子どもも教員も楽しめる内容を模索した。

小学部低学年ブロックでは「feeling」で扱う単語に happy 等4つを選択し、大型画面に映した友だちの様々な表情を見て、それぞれの気持ちを想起させる効果音と共に扱うことで視覚、聴覚から「出会う」気持ちへのアプローチを行った。高学年ブロックでは度々 Thank you を使う場面を設定し、本物の感情に「触れる」やり取りをする体験を学びの切り口とした。中学部では Try & Enjoy を大切に「表現・表出する」機会を想定し、ア

クティビティには食や行事等、文化の比較や視覚、聴覚、嗅覚、触覚に訴える教材等の工夫が盛り込まれた。また、廊下には feeling コーナーを設け、日常的に外国語活動の内容が目に触れる環境づくりを行った。

#### ②児童生徒の実態把握についての項目

- ・個別指導計画からの具体的な目標
- ・指導内容
- ・本単元の目標
- ・具体的な手立て
- ・授業での表出の変容

研究に活用したアセスメントは年度初めの個別指導計画に用いて、年間を通した PDCA サイクルで見取ることとした。そのため、本研究の学習目標設定にもこの個別指導計画の目標を利用し、個に応じた手立てに、変容を具体的にイメージした支援を示し、教職員が共有することに力を置いた。これにより、適切な授業準備や支援を追求でき、変容のとらえ方の明文化が実現した。なお、児童生徒の変動する健康状態に連動した教育的支援、指導目標の立て方について、スーパーバイザーの帝京平成大学 教授 齊藤由美子氏から助言をいただいた。今後の個別指導計画の立て方にも有益な視点を得ることができた。

#### 【考察】

年間指導計画の作成にあたり、ブロックを越え何をどう指導するかについて意見を出し合い、共有することができた。月に1度だけ、ALT と触れ合い、普段とは違う言葉でのやりとり等、他の集団授業とは違った特別感のある授業が外国語活動で実践できた。子どもたちがワクワクする気持ちを大切に、外国語や外国の文化に触れる体験をし、これからも子どもたちが学びたいと思える授業づくりをしていきたい。